

**2021 年度第 2 四半期 決算説明会サマリー**  
2021 年 11 月 8 日開催

**(1) 2021 年度 第 2 四半期 決算概要 (前年比) 単位：億円**

Denka Value-Up の施策が功を奏し、上期の過去最高益を大幅に更新する結果となった。

①売上高 1,911 +308 数量差+312、売価差+154、収益認識に関する会計基準変更△157

新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの需要拡大、xEV・半導体関連製品の需要伸長、昨年の新型コロナウイルスによるマイナス影響からの需要回復などにより、前年同期比数量差+312 億円。

売価差は、原材料価格上昇に伴うスチレン系製品販売価格改定等により+154 億円。

収益認識に関する会計基準変更により、△157 億円。合計+308 億円の増収。

②営業利益	252	+132	
数量差	+201		需要拡大・伸長 (新型コロナ抗原迅速診断キット、xEV・半導体関連製品、他)、 新型コロナウイルス影響からの需要回復 (クロロブレンゴム、他)
売価差	+154		原材料価格上昇に伴うスチレン系製品販売価格改定等 (為替変動影響+19 含む)
変動原価差	△178		原材料価格上昇、他 (為替変動影響△8 含む)
コスト差	△45		製造コスト、本社費等
-----			
要因別内訳計		+132	

数量差プラスの影響がスプレッド悪化、コストの増加を上回り、前年同期比+132 億円の大幅増益

**(2) 2021 年度 業績予想 (期初予想比) 単位：億円**

最高益を目指すとした期初予想からさらに増益を見込む。

①売上高	3,950	+300	数量差+30、売価差+270
②営業利益	440	+20	
数量差	△28		プラス要因 (半導体関連製品等の上振れ) マイナス要因 (米国 DPE ハリケーンアイダ影響 約△25、 インフルエンザワクチンの下振れなど一過性)
売価差	+270		新型コロナウイルス抗原迅速診断キット、 原材料価格上昇に伴うスチレン系製品価格改定、他 (為替変動影響 + 43 含む)
変動原価差	△204		原材料価格上昇、他 (為替変動影響△29 含む)
コスト要因	△33		製造コスト、本社費等
先行投資負担等	+15		研究開発費
-----			
要因別内訳計		+20	

アメリカでのハリケーンアイダの DPE への影響やインフルエンザワクチンの下振れなど一過性のマイナス要因により数量差が△28 億円に悪化し、原材料価格上昇により変動原価差が△204 億円になる見込み。

売価差は、新型コロナウイルス抗原迅速診断キットのプラスに加えて、製品価格改定により+270 億円となる見込みであることから合計で+20 億円の増益を見込む。

**(3) 株主還元**

1 株当たり配当は、期初予想の 135 円から 145 円へ 10 円増配

2020 年度配当 : 125 円/株 (中間 60 円・期末 65 円)、配当性向 47%

2021 年度配当期中初予想 : 135 円/株 (中間 65 円・期末 70 円)、配当性向 40%

2021 年度配当今回予想 : 145 円/株 (中間 70 円・期末 75 円)、配当性向 43%

総還元性向 50%を基準とする方針を継続

#### (4) Denka Value-Up 2022 年度数値目標

2022 年度の数値目標：営業利益 500 億円

(セグメント別内訳)		(前年比)
電子・先端プロダクツ	220 億円	(+35 億円)
ライフイノベーション	110 億円	(△45 億円)
エラストマー・インフラソリューション	70 億円	(+80 億円)
ポリマーソリューション	110 億円	(+15 億円)
その他／消去等	△10 億円	(△25 億円)
合計	500 億円	(+60 億円)

営業利益 500 億円の達成に向けて、全社一丸となってスペシャリティ戦略をさらに推し進める。

#### (5) 主な質疑応答

##### ① 電子・先端プロダクツの需要動向

- ・ 溶融シリカや高機能フィルムの半導体関連製品は、強い需要が続くと見込む。
- ・ アセチレンブラックは、半導体不足による自動車メーカー生産減の影響を一部受けているが、決算説明会資料 17 ページのグラフに示す通り、LiB、高圧ケーブル用途の中長期的な需要は伸長の見通し。既存拠点の部分的な生産能力の増強に加え、新規製造拠点増設の検討を進めている。

##### ② 新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの販売状況

- ・ 売価が下落するリスクを織り込んでいた期初予想の想定ほど単価が下がらなかった上期の状況が、下期にもある程度続く見通し。
- ・ 2022 年度数値目標には、売価下落リスクを織り込んでいる。

##### ③ エラストマー・インフラソリューションの業績見通し

- ・ 米国でのハリケーンアイダにより、クロロプレンゴム生産拠点である DPE にてサプライチェーン上流での影響があり、利益への影響額として△25 億円を織り込んでいる。
- ・ クロロプレンゴム、セメント、特殊混和材などで、原材料価格上昇に対する価格改定を実施。今期以上に、来期の業績への寄与を見込んでいる。

##### ④ 事業ポートフォリオの変革

- ・ 具体的な案件が複数進んでいる。
- ・ 2022 年度中には、当社としてのポートフォリオ改革の何らかの結果を発表できるよう進めている。

以上